

2016年度 上期決算説明会

代表取締役社長 志藤 健

YOR●ZU

株式会社 ヨロズ

東京証券取引所市場第1部（証券コード：7294）

目次

YOR●ZU

- I . 2016年度上期業績
- II . 2016年度通期予想
- III . 米国での収益改善の取り組み
- IV . 「YSP2017」の進捗及び今後の方向性
- V . 株主還元について

I. 2016年度上期業績

II. 2016年度通期予想

III. 米国での収益改善の取り組み

IV. 「YSP2017」の進捗及び今後の方向性

V. 株主還元について

3

2016年度上期連結決算概要

◆ 損益の状況(前年同期比)

単位:百万円

	2016年度 上期	2015年度 上期	前年同期比	2016年度 上期直近予想※2	直近予想比
売上高	83,173	83,560	△0.5%	83,000	+ 0.2%
営業利益	2,528	4,234	△40.3%	2,000	+ 26.4%
経常利益	456	3,238	△85.9%	500	△8.8%
当期純利益※1	△290	1,503	—	△300	+ 3.3%

	2016年度上期	2015年度上期	増減額	増減率
一株当たり当期純利益	△11円74銭	60円72銭	△72円46銭	△119.3%
連結取り込みレート	111.68円 / \$	120.30円 / \$	△ 8 円62銭	△7.2%

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

※2 2016年8月12日開示予想値

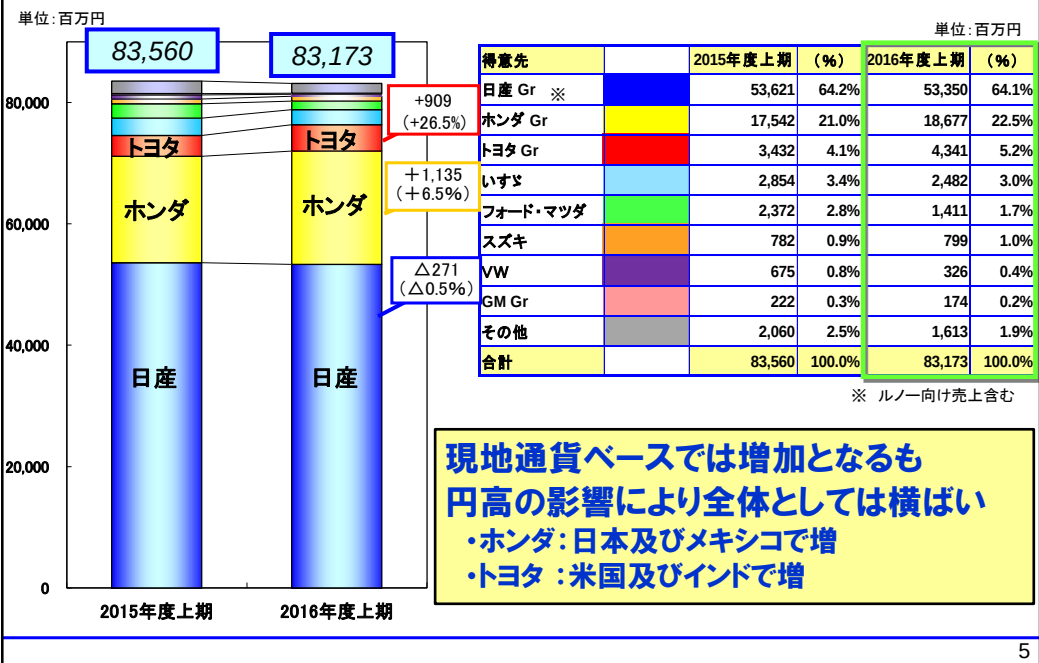
- ◆売上高 : 現地通貨ベースでは増加となるも、円高の影響により全体としては横ばい
- ◆営業利益 : 米国損益の悪化により減益
- ◆経常利益 : 円高に伴う為替差損により減益
- ◆当期純利益 : 「法人税等」及び「非支配株主に帰属する四半期純利益」の影響により当期純損失

売上高は前年同期並み 営業利益は米国損益悪化により減益

4

連結得意先別売上高(15年上期 対 16年上期)

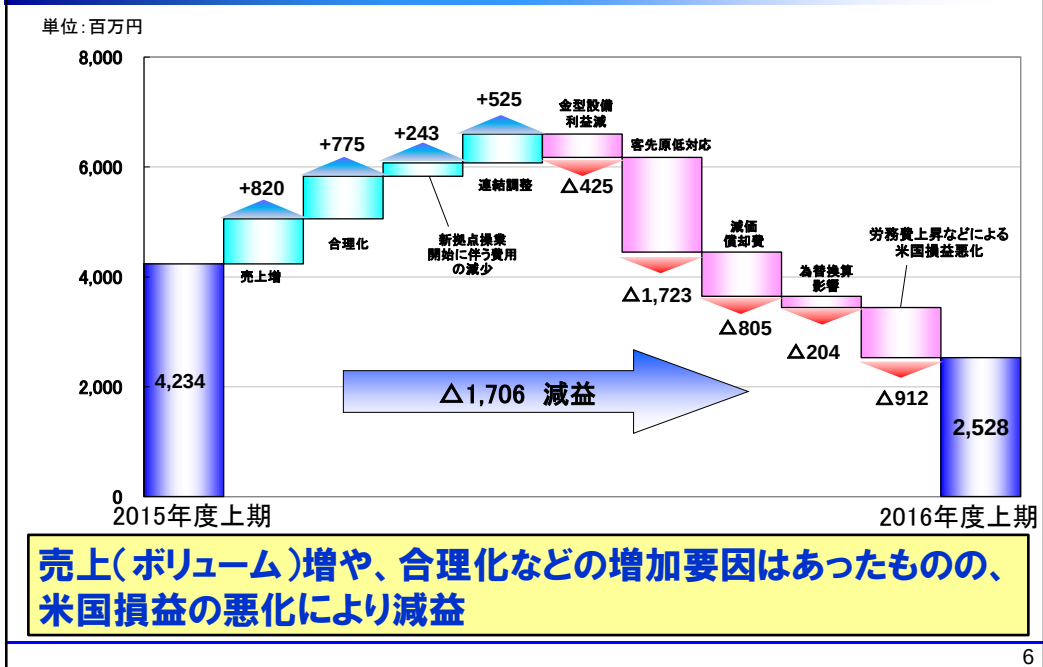
YORZU



5

連結営業利益の増減要因分析(15年上期 対 16年上期)

YORZU

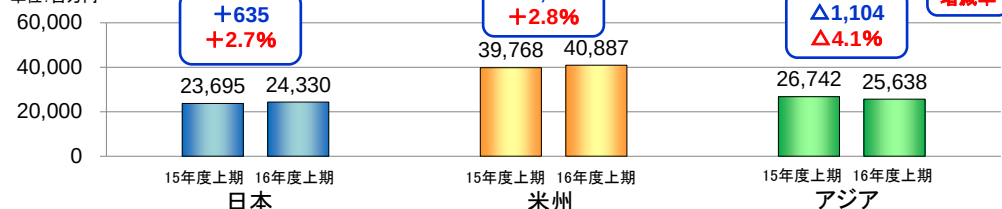


6

地域別(連結調整前)売上高・営業利益(15年上期 対 16年上期) YORZU

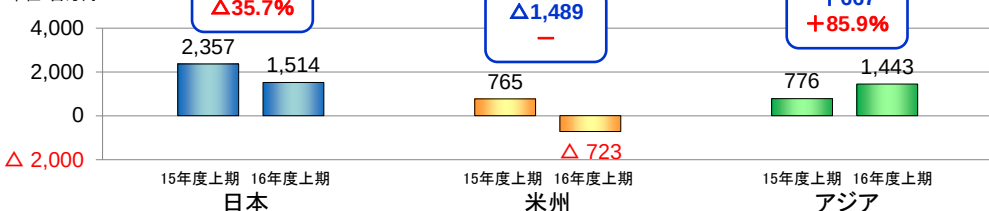
◆売上高

単位: 百万円



◆営業利益

単位: 百万円



日本は、円高によるロイヤルティの減少などにより減益
米州は、米国損益の悪化により営業損失
アジアは、タイでの収益改善効果などで増益

7

連結貸借対照表の状況 2016年度上期

YORZU

単位: 百万円

	2016年9月末	2016年3月末	増減
流動資産	69,567	67,117	+2,450
固定資産	78,646	84,233	△5,587
総資産	148,214	151,351	△3,137
流動負債	45,246	43,092	+2,154
固定負債	20,245	12,230	+8,015
負債合計	65,492	55,323	+10,169
株主資本	79,098	80,123	△1,025
その他の包括利益累計額	△9,853	△499	△9,354
非支配株主持分他	13,476	16,403	△2,927
純資産	82,722	96,027	△13,305
負債・純資産合計	148,214	151,351	△3,137

現預金	+2,447
売掛金	△729
棚卸資産	△1,221
仮払金	+1,765

有形固定資産	△4,814
無形固定資産	△86
投資有価証券	△115

有利子負債	+12,122
買掛金	△1,724
電子記録債務	+920
未払法人税等	△518

純利益	△290
配当支払	△470
自己株式	△259

為替換算調整 退職給付に係る 調整累計額	△9,528
	+105

銀行借入での資金調達による有利子負債が増加
円高の影響により為替換算調整勘定が減少

8

I. 2016年度上期業績

II. 2016年度通期予想

III. 米国での収益改善の取り組み

IV. 「YSP2017」の進捗及び今後の方向性

V. 株主還元について

2016年度連結業績 通期予想概要

◆ 損益の状況(前期比)

単位:百万円

	2016年度 予想	2015年度 実績	前期比	2016年度 前回予想※2	直近予想比
売上高	164,000	172,797	△5.1%	164,000	—
営業利益	5,000	10,015	△50.1%	6,000	△16.7%
経常利益	5,000	7,355	△32.0%	6,000	△16.7%
当期純利益※1	2,500	3,700	△32.4%	3,200	△21.9%

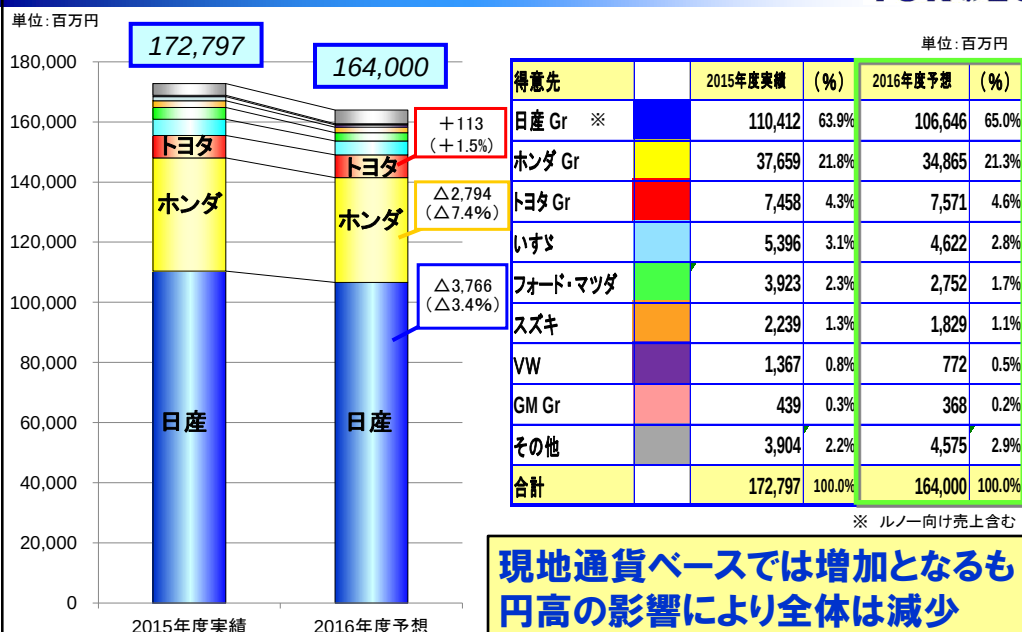
※1 親会社株主に帰属する当期純利益
 ※2 2016年8月12日開示予想値

- ◆売上高 : 現地通貨ベースでは増加となるも、円高の影響により全体としては減収の見込み
 ◆営業利益 : 米国損益の悪化や円高の影響により減益
 ◆経常利益 : 為替の動向が極めて不透明なため、通期予想では為替差損(営業外費用)を
 /当期純利益 現時点では見込まず

売上高は円高の影響により減収
営業利益は米国損益悪化などにより減益

連結得意先別売上高(15年実績 対 16年予想)

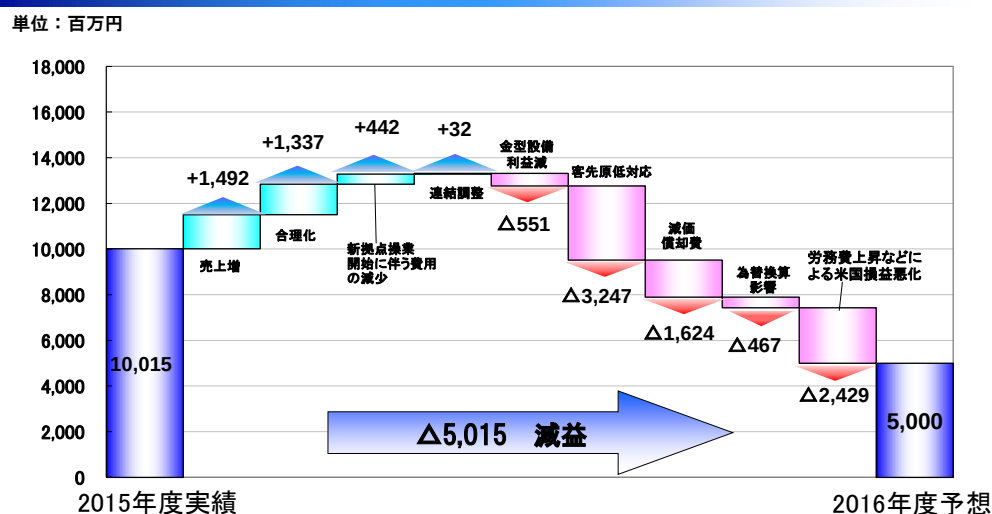
YORZU



11

連結営業利益の増減要因分析(15年実績 対 16年予想)

YORZU



**売上(ボリューム)増や、合理化などの増加要因はあったものの、
上期同様米国損益の悪化により減益の見込み**

12

地域別(連結調整前)売上高・営業利益(15年実績 対 16年予想) YORZU

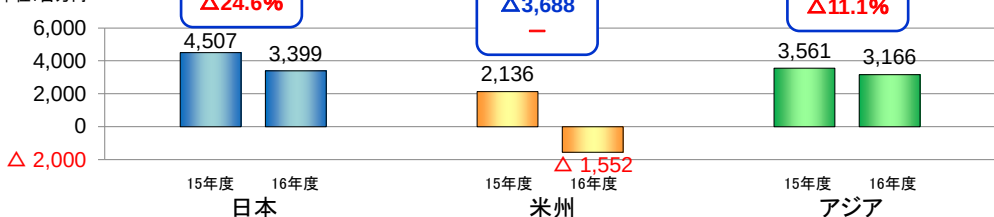
◆売上高

単位:百万円



◆営業利益

単位:百万円

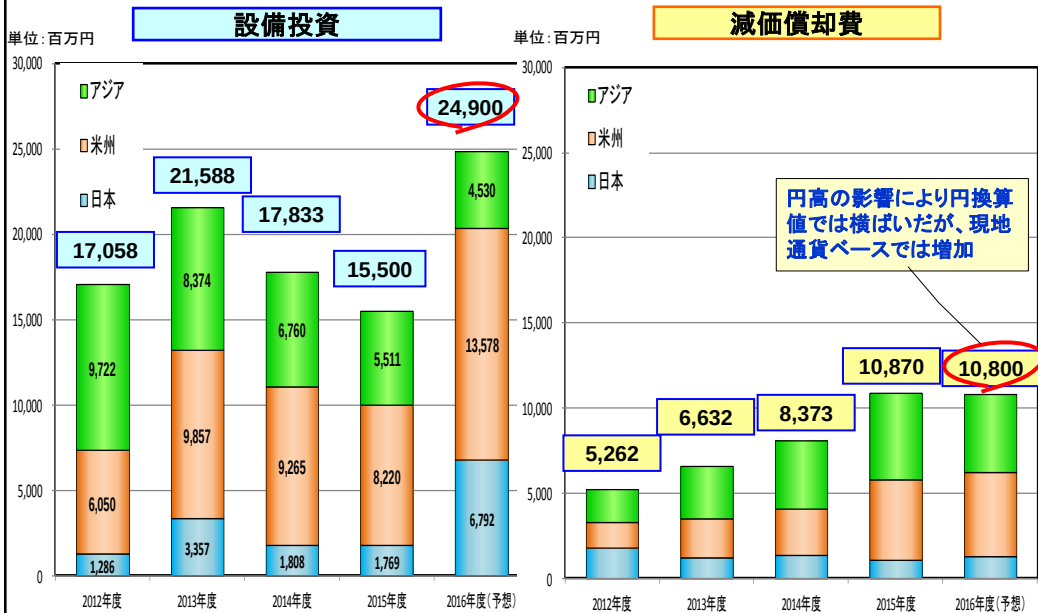


日本は、円高によるロイヤルティの減少などにより減益
 米州は、米国損益の悪化により営業損失
 アジアは、円高の影響により営業利益の円換算値は減少

13

設備投資と減価償却費

YORZU



14

I. 2016年度上期業績

II. 2016年度通期予想

III. 米国での収益改善の取り組み

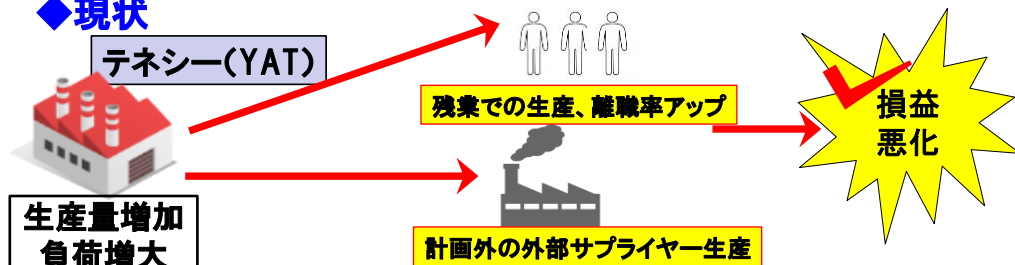
IV. 「YSP2017」の進捗及び今後の方向性

V. 株主還元について

15

米国での収益改善の取り組み

◆現状



◆今後(2017年1月～)



YAA早期立上による負荷軽減とプレス内製化

16

米国での収益改善の取り組み

YORZU

YAA早期立上スケジュール

		2017				2018
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
工場立上げ日程 Basic Schedule for Plant setup	当初計画					 生産開始
	2016年度 第1四半期 発表		 プレス生産開始	 組立塗装一貫生産開始		
	今回計画	 17年1月 プレス生産開始		 組立塗装一貫生産開始		

YAA全景

3500TFプレス

当初計画に対し、プレス工場の生産開始を1年前倒し

17

17

YORZU	
I . 2016年度上期業績	
II . 2016年度予想	
III . 米国での収益改善の取り組み	
IV . 「YSP2017」の進捗及び今後の方向性	
V . 株主還元について	

18

(1) 製品力・開発力の更なる強化

- 1) 超軽量・高剛性・低価格ニーズへの対応
- 2) YPW(ヨロズ生産方式)の革新

(2) 世界の主要自動車メーカーへの販路拡大

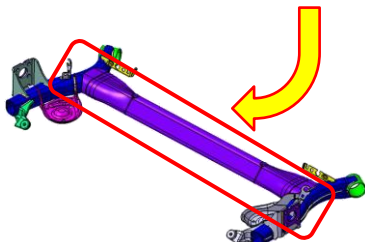
- 1) 欧米OEMへの販路拡大
- 2) グローバル供給体制の更なる強化

(3) 多様性を尊重したグローバルマネジメントの強化

- 1) 将来の業容を見据えた人財確保と登用

軽量・高剛性パイプビーム式サスペンションの開発

ビーム部に、プレス成型し熱処理で
強度を約3倍向上させた鋼管を採用し、
重量を約15%削減させた。



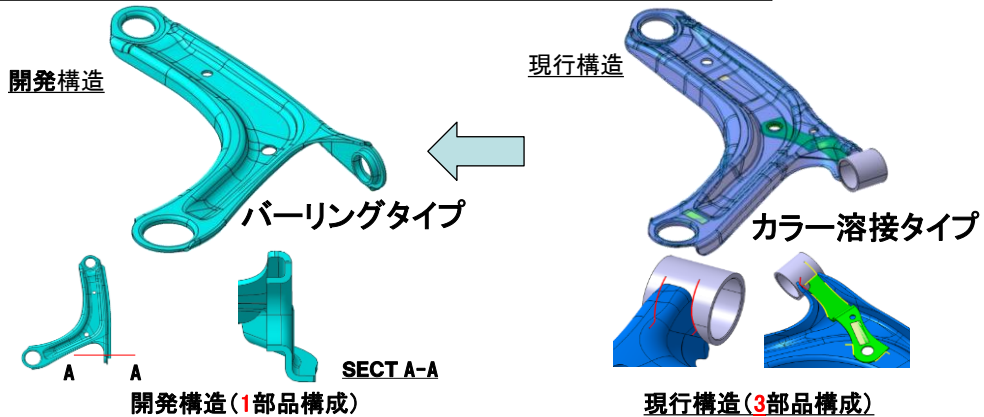
Renault向け『SM6』
パイプビーム式サスペンション

量産製造工程



今後、パイプビーム式サスペンションのコスト20%向上を目標に
次世代プラットフォームへの、グローバル展開を予定しています。

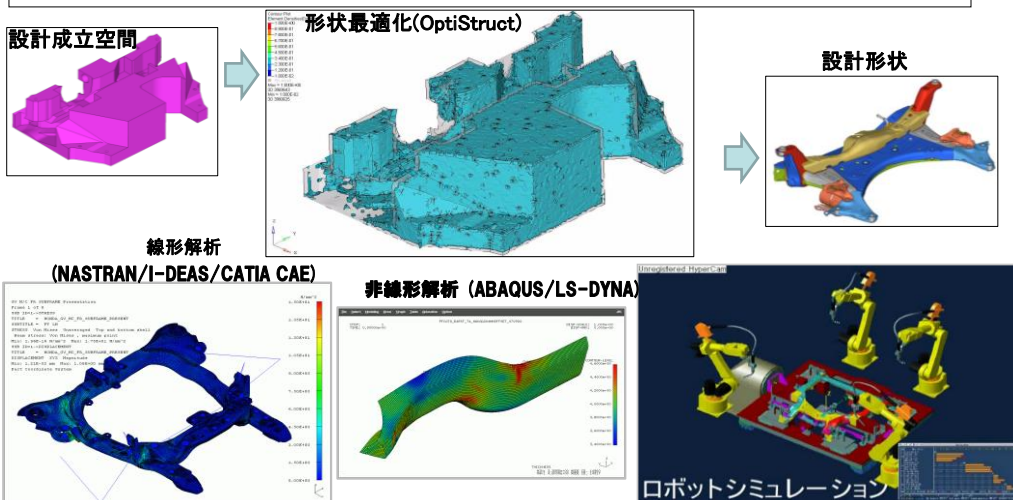
サスペンションリンクの軽量化・コスト低減開発



部品一体化により、**15%の軽量化**、**10%のコスト低減**を目標に、
グローバルに安定生産が可能なサスペンションリンクを開発中。
次期型グローバル車両への拡大採用を計画しています。

21

シミュレーション技術によるサスペンション部品の最適化開発



解析・分析精度を向上させ、開発/生産準備期間を**約30%短縮**

22

YPWの革新・・・ダントツ品質と革新的原価低減

YPW (Yorozu Production Way : ヨロズ生産方式)

【革新ラインの構築】

今までの延長ではない無人化された、高速・高効率な生産ラインを開発

- ・ 革新的な「組立自動化ライン」の採用
- ・ 圧入ライン、塗装ラインの自動化
- ・ 大型サーボプレス機の導入によるコストダウン
- ・ AGV実用化による場内物流の無人化
- ・ サーボトーチ、インライン溶接チェック機導入による品質の向上

ダントツ品質と革新的原価低減を支える
革新的な生産ラインを構築する。

23

2016年度上期に受賞した品質賞と年度推移

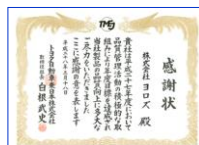
NISSAN
グローバル品質賞 (4年連続)



TOYOTA

HINO

感謝状



品質優良賞
(北米:YAT)



北米日産
リージョナル品質賞
(北米:YMEX)



日産車体
品質貢献賞



昨年度までの得意先品質賞受賞件数の推移



24

YOROZU

[illegible]

YOROZU

Map of the Paris region showing the location of Renault's new headquarters in Velizy-Villacoublay. The map highlights the Paris center (パリ中心地) in green, the CDG airport (CDG空港) in blue, and the Renault headquarters location (事務所設立地) in yellow. A red circle around Renault's headquarters indicates a 30-minute commute time (30分). A blue line from the CDG airport to the headquarters indicates a 1-hour commute time (1時間). The map also shows various Renault subsidiaries and suppliers in the region, including Valeo, Bosch, and Magneto Automotive.



27

I. 2016年度上期業績

II. 2016年度通期予想

III. 米国での収益改善の取り組み

IV. 「YSP2017」の進捗及び今後の方向性

V. 株主還元について

28

財務戦略:①自己株式取得

YORZU

1. 取得した株式の種類: 当社普通株式
2. 取得した株式の総数: 100万株
3. 株式の取得価額の総額: 1,587百万円
4. 取得期間: 2016年9月14日～2016年11月8日まで
5. 取得方法: 信託方式による市場買付

＜参考＞2016年9月8日開催の取締役会での自己株式取得に関する決議事項

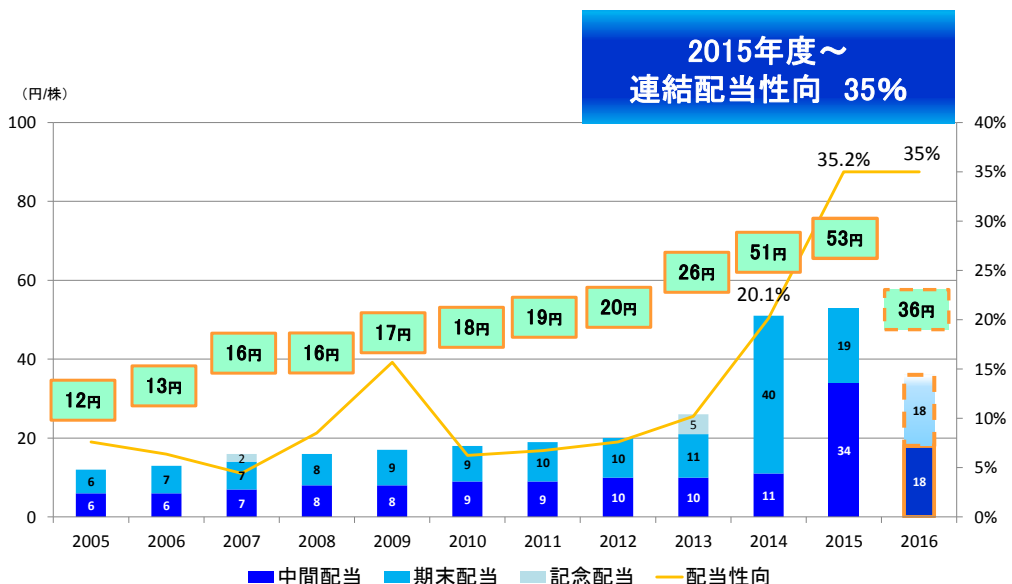
- ・取得し得る株式の総数: 100万株(上限)
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合4.04%)
- ・株式の取得価格の総額: 20億円(上限)
- ・取得期間: 2016年9月14日～2017年3月13日

資本効率の向上を図るとともに、経営環境に応じた機動的な資本政策を可能とするため、自己株式の取得を実施(11月8日に完了)

29

財務戦略:②株主還元策の拡充

YORZU



30

2016年度 **YORUZU** 上期決算説明会
ご清聴ありがとうございました

ヨロズ ホームページアドレス
<http://www.yorozu-corp.co.jp>

31

免責事項と著作権について

YORUZU

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。当社と致しましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の業績見通しのみに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控え下さいますようお願い致します。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願い致します。

●お問合せ

責任者： ㈱ヨロズ 取締役副社長執行役員 財務部長 佐草 彰
担 当： ㈱ヨロズ 財務部 高橋 剛健

T E L 045-543-6802 F A X 045-543-4915

32